様式１

令和３年度　学校評価報告書

令和４年２月２２日
渋谷区立笹塚小学校

様式１

令和３年度学校評価報告書
渋谷区立笹塚小学校

（１）シブヤモデルの実現（未来の学校に向けた学びの改革）

【ア】　自己評価

重点目標		①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、学びの質の向上を図る。 ② ICT 機器や情報を、正しく効果的に活用することのできる資質・能力を育成する。 ③ 渋谷区や笹塚の街への誇りと愛着をもち、よりよくしていこうとする態度を育成する。 ④ 生活科・総合的な学習の時間を中心とした、探究型の学びの充実を図る。		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	全ての学級で主体的・対話的で深い学びになっているかという視点での授業改善を進める。	授業の中で友達との交流を通じて意見交換を行い、学びを深める活動が盛んに行われるようになった。	B	基礎学力の定着度合いの確認や、学びの深まりの見取りなど、確かな学力向上につながっているかどうかの検証・改善のサイクルを確立させていく。
②	タブレットの活用を推進し、学年の発達段階に応じたアプリの利用を積極的に取り入れていく。	学習者用デジタル教科書の導入や授業での様々なアプリの使用により、活用が進んでいる。	A	学年や学級によって、活用頻度に差がある。よい取組や活用方法を広げていくための、情報共有の仕方やミニ研修の実施等の工夫をしていく。
③	「シブヤ科」および生活科の学習を通して、地域のよさに気付き提案や発信ができるようにする。	全学年で地域を題材とした学習に取り組み、新たな気付きや発見とともに地域への愛着が高まった。	B	今年度の実績をベースに、地域の様々な人材や団体とのタイアップを拡充する等、地域学校協働本部を核にさらなる充実を図っていく。
④	校内研究の充実を通じて、「調べ学習」から「探求型の学習」への転換を図る。	２回のワークショップおよび３本の授業研究を通じて、探究学習のプロセスへの理解が進んだ。	B	探究学習のプロセスは見えてきたものの、評価の仕方や取り扱う単元の内容等、課題も明らかになってきた。次年度も継続して研究を進めていく。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成

【イ】　学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
B	タブレットについては、積極的な活用が図られている。また自ら課題を見付ける能力を育む探究学習や、対話的で深い学びに関する取組について、児童相互で意見交換し課題への対応を導き出すための時間を意識的に取っている様子が窺える。この学習は児童の体験的事象の共有の上に成り立つもので、地域を題材とした「シブヤ科」等の体験学習とのリンクは効果が期待できる。今後とも区や地域との連携を図られたい。併せてこれらの学習に欠かせない教師のファシリテーターとしての役割を磨いていくために、さらなる実践・試行錯誤を重ねていただきたい。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成

様式１

令和３年度学校評価報告書
渋谷区立笹塚小学校

（２）安心・安全に挑戦できる環境について

【ア】　自己評価

重点目標		① 互いのよさを認め合い、思いやりの心や自他を尊重する態度を育成する。 ② いじめや不登校等の問題について、未然防止と早期発見･早期解決に努める。 ③ 特別支援教育に関する専門性を高め、インクルーシブ教育の推進に努める。 ④ 道徳教育や人権教育の充実を通して、差別のない社会や多様性への理解を深める。		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	日常的に互いのよさを認め合う場の設定、違いを認め合う活動を全学級で取り入れる。	授業中や帰りの会、行事の振り返りの場面などで、互いのよさや違いを認め合う活動を行った。	B	児童の日々の言動を見ると、まだまだ十分とは言えない現状がある。活動が形骸化しないように工夫しながら、継続して取り組んでいく必要がある。
②	アンケートや面談結果、生活指導夕会での情報共有により、問題の早期発見や改善につなげる。	早期に対策委員会を立ち上げ、深刻な事態になる前に対応できた。不登校にも根気よく丁寧に対応した。	B	学校だけでは解決が難しい問題も多数あり、関係諸機関との連携を図ってきた。まだ改善に至っていない事案もあり、取り組みを継続していく。
③	学級と特別支援教室との連携を深め、児童や保護者の困り感に寄り添った支援を行う。	コーディネーターや専門員を中心に、巡回教員や心理士等との連携を図ることができた。	B	学級担任の特別支援教育に対する理解や学級での支援の手立てについては、まだ十分ではない。研修を行うなど、啓発に努めていく。
④	推進教師を中心に、組織的・計画的に道徳の授業の充実や人権教育の推進を図る。	今年度はジェンダー問題に視点を当て、学年の発達段階に応じた授業の提案を行った。	A	道徳授業地区公開講座の CS 委員との協議は効果的であった。保護者には動画公開とアンケートを実施、意見交換の方法を工夫していく。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成

【イ】　学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
B	保護者には友達関係やいじめに対する不安があるようだ。また児童の否定的な回答が増えているのも心配。日々の言動や行動からだけでは十分に理解できていない児童もいるのではないか。学校は、多様な子供たちが互いに影響し合って育つ場であり、考えや価値観の違いを認め合うような指導や道徳教育が小学校の最重要課題である。学校としても取組は進めているが、さらに一人一人の児童のよさの理解やそれを学級内等で共有し合う環境の保障に努めていただきたい。学校だけでは解決できない課題もあり、関係機関や様々な人材も活用しながら対応していくことが望まれる。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成

（３）働き方改革について

【ア】　自己評価

重点目標		① 学校行事の精選やスリム化を図り、時間や手間を減らして成果をあげる。 ② 校務運営において ICT を活用し、情報の共有や打合せ時間の削減に努める。 ③ メンタルヘルス支援に努め、職員が生き生きと働くことのできる職場環境をつくる。 ④ ICT を活用した「新しい働き方」を推進し、ワーク･ライフ･バランス改善を図る。		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	時間と手間を減らしてもねらいを達成できるよう各行事の取り組み方を工夫し、簡略化を図る。	コロナ禍もあって、学校行事のスリム化については、かなり効果的に実践することができた。	A	スリム化が図られたのは成果であったが、そこに至るまでの検討にはかなりのエネルギーを費やした。確実に次年度への改訂に生かしていく。
②	日常的な情報共有や連絡のツールとして、タブレットの様々なアプリを効果的に活用する。	日常的な情報共有や連絡のツールとして、タブレットの様々なアプリを効果的に活用する。	B	様々な情報共有手段があったことや、共有が容易になったことで、逆に確認が不十分になることもあったため、確認手順のルールを明確にする。
③	全ての職員が、心身ともに健康な状態を保ち、日々の業務にあたることができる。	支援事業の情報提供や、気になる職員への互いの声かけ等、ラインケアを意識して行っている。	B	勤務に重大な支障をきたすほどの心身不調に至った職員は出なかったが、メンタルケアや学校としてのサポート体制については課題が残った。
④	クラウドや BYOD※を活用し、自宅や校外において、自分のライフスタイルに合わせて校務を行う。	長期休業中の在宅勤務の推奨、大半の教員が端末の持ち帰りや個人端末の活用などを実践している。	A	子育て世代など、家事の合間に自分の都合に合わせて仕事を進められるようになったが、休日に半強制的なやりとりが発生しないよう、ルールを定める。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成

※ BYOD：私的デバイスの活用。各教員が個人の私的端末から組織（教育委員会）ネットワークにアクセス可能になっている。

【イ】　学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
A	教職員との話合いの機会は互いの理解を深めるのに役立った。教師の元気な姿が児童のよりよい学校生活につながる。情報共有等のシステム構築には労力を要したと思うが、校務への ICT 活用等様々な改善が進められ、負担の軽減や働き易い環境づくりに努めていることが窺える。若手教員の児童・保護者対応に対する難しさについては、管理職や先輩教員からのサポートが必要。また、学校の努力だけでは解決できない学校運営課題も感じられる。外部の働き方改革コンサル等の活用も考えてはどうか。できれば人員を増やして教員の負担を減らし、児童にもっと集中できる環境を作れるとよい。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成

様式１

令和３年度学校評価報告書
渋谷区立笹塚小学校

（４）家庭・地域との連携について【ア】　自己評価

重点目標		① 学校運営協議会における協議を活性化させ、地域に開かれた教育課程の実現を目指す。 ② 地域学校協働本部の活動を活性化させ、地域人材･団体の参画を推進する。 ③ 学校行事や校外学習支援をはじめ、PTA･保護者との連携を図る。 ④ 小中・幼保小連携事業を充実させ、学びを意識した互恵性のある連携の実現を図る。		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	学校運営協議会の開催回数を増やし、毎回の協議会における協議の活性化を図る。	感染対策を講じながら、協議会を確実に実施することができた。各回の協議も、充実した内容であった。	A	CS としての取組や協議会の内容は意図的に発信してきたが、保護者や地域住民への周知がまだ十分ではない。さらなる情報発信に努める。
②	地域学校協働本部を立ち上げ、学習活動のサポートや新規事業の展開等、活動を軌道に乗せる。	６月に協働本部が立ち上がった。また、演劇鑑賞会や防災宿泊体験など新規事業を実施した。	A	担任と推進員との間で、ダイレクトにサポートの依頼が行われるようになった。次年度は、年度初めに年間の見通しを打ち合わせる機会を設ける。
③	役員会等で学校の教育活動や保護者対応等について情報交換を行い、連携の強化を図る。	行事や校外学習のサポート等、協力関係を築くことができたが、個別では対応の難しいケースもあった。	B	個々の保護者と学級担任との信頼関係をしっかり築くために、次年度は個人面談や保護者会の実施方法や内容を工夫していく。
④	ただの交流に終わらないよう、学びのつながりを意識した交流活動を実施する。	教科の学習に関して協議する形の事業に変えることができた。幼保小連携は限定的な実施になった。	B	小中連携については、今回の改善をベースに、今後のさらなる充実につなげていく。幼保小連携については、実施方法を工夫していく。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成

【イ】　学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
B	コロナ禍で授業参観や地域交流が十分にできなかったのは残念だが、新しい取組への挑戦や児童に地域への興味関心をもたせる取組等は一定の評価ができる。また、学校運営協議会での協議･意見交換等を充実させ、学校運営に関する理解を深めようとしている意図が伝わり、学校の様子や地域の状況がさらに分かるようになった。地域学校協働本部の立ち上げ等、コロナ禍でも地域連携が進んでいることが感じられる。さらなる発展に期待したい。PTA と学校との連携も良好だと感じる。保護者と意見交換できる場はとても有意義であった。今後も話し合う機会をもてるとよい。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成

様式１

令和３年度学校評価報告書
渋谷区立笹塚小学校

（５）特色ある教育活動について

【ア】　自己評価

重点目標	① 特別活動の充実を通して、自主的・実践的に関わり活動を工夫する力を育成する。 ② 学校図書館の活用促進を通して、読解力や探究力の向上を図る。 ③ 伝統文化体験や英語活動を通じ、自国･他国の文化を大事にする心や豊かな国際感覚を育てる。 ④ 鼓笛隊活動や地域行事への積極的な参加を通じて、地域社会の一員としての意識を高める。			
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	事前指導におけるめあての確認や活動方法の工夫、事後指導における振り返りを確実に行う。	特別活動部の提案により活動の改善が見られた。特に縦割り班活動については大きな改善が図られた。	A	継続してより充実した活動になるよう指導を続けていく。今後は、さらに各学級における学級活動の取組の充実を図っていく。
②	おすすめの本 50 の取組や､専門員を活用した読書活動・調べ学習の充実を図る。	図書館システムの導入や図書ボランティアの活動など、コロナ禍においても工夫して活動が進められた。	B	図書館システムの安定稼働や図書ボランティアの協働本部事業展開など、さらなる活動の充実を目指して、検討・工夫を重ねていく。
③	伝統文化体験を通じて、自国文化への理解を深め、外国語と連携した発信活動を行う。	伝統文化体験は、縮小せざるを得なかったが実施できた。外国語との連携や発信は未実施である。	C	伝統文化体験は継続して実施していく。可能なら茶道・華道体験、囲碁・将棋教室も実施し、外国語での発信につなげていく。
④	鼓笛隊の地域パレードや地域の防災訓練への参加、地域行事への参加の働きかけを行う。	パレードについては、実施の方向で計画を進めている。その他の行事は中止が相次ぎ、難しかった。	C	感染拡大の状況を見ながらではあるが、可能な限り実施していく。次年度の百周年記念行事に向け、地域との連携を一層強化していく。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成

【イ】　学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
B	コロナ禍で未達成の部分もあるが、その中でも工夫して教育活動を実施してきたことが窺える。特別活動における指導の充実は一定の評価ができる。次年度の 100 周年記念行事も工夫しての実施を期待したい。児童の思考で「渋谷・笹塚の街」や「地域で活躍する人」にターゲットをあてての地域学習は面白いと感じた。地域の教育資源として、歴史遺産（旧玉川上水路や水道道路など）やささはたカフェその他のイベント等も活用できるとよい。学校図書館については、協働本部を核とした地域人材活用やこども図書館などとの連携等、さらなる拡充を期待したい。

A＝十分達成できた　B=おおむね達成できた　C=未達成